

# 雪嶺集

〈宮坂静生鑑〉



小諸へ

小林貴子

暮れ方の雲の不穩や御巢鷹忌  
伸びなやむ日もたまにあり雲の峰  
壇上に水差のある涼しさよ  
薪能鬼女あつけなく首とられ  
凌霄の天秤咲きに日のかげり  
困む木のはしやぐ八朔相撲かな  
碧桐梧行くゆきあひの空の色  
風は秋墓に彫らるる俱会一処  
青胡桃古墳を水の流れ出づ  
おひしばめひしば軽々と生きてゐる